マルチデバイスにおける気象データの可視化

東京都立多摩科学技術高等学校
２年　小山 智之

* 機能の一部は開発中であり、デザイン・仕様等が変更される場合があります。

背景・目的

- 昨年の課題を踏まえ、よりモバイルに特化した可視化システムの構築が必要であると考えた。
- モバイルの利点を活かし利用者それぞれに対して最適な情報を提供する必要があると考えた。

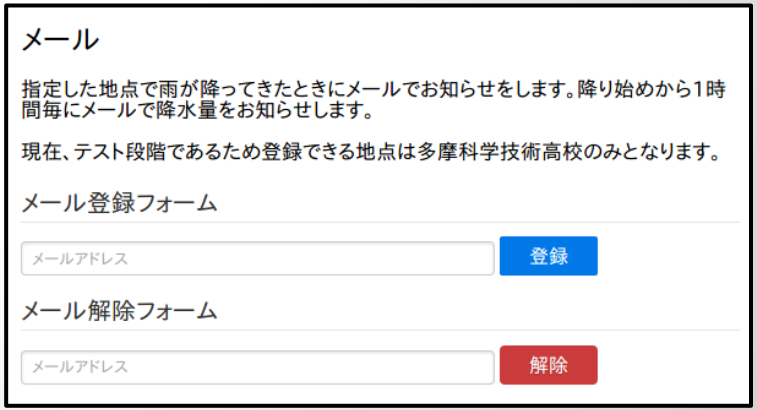
- 利用者それぞれに対して最適な情報を提供するサービスの開発をする。

動作状況：サイト

- ページ切り替えなく情報を確認できるよう改良。
- レスポンシブWebデザインでマルチデバイスに対応。
- 情報量を削減し見やすく改良。
- 現在地からの取得をページ移動なく実行が可能。
- メニューバーのデザインを改良しモバイルでの操作性を向上。

動作状況:検索機能

- 地点検索機能を改良。
- 入力を検知して自動で検索を開始。
- データベースから地点を検索

動作状況：メール通知機能

- 事前登録を行った利用者に降雨が確認されると自動でメールを送信。
- cronを使用してメール送信を管理。
- 雨の降り始め，振り終わりを通知（実装中）。